

カ
ガ
ク
で
ネ
ガ
イ
を
カ
ナ
エ
ル
会
社

カネカは実験カンパニー

KANEKA

(証券コード: 4118)

株主のみなさまへ

第100期 中間報告書

2023年4月1日 - 2023年9月30日

株式会社 **カネカ**

カネカは世界を健康にする。

KANEKA thinks “Wellness First”.

カネカは、地球の命に心を寄せ、食べ物を健やかにする、
人間や動物を元気にする、ビジネスに活気を与える、
そして社会を明るくする。

この世界を「健康」にしていくために。

カネカは、ますますカガクにできることを広げ、
さまざまなソリューションを通じて、社会と人々の
願いをかなえていきます。

カネカは命を育む社会を支えます。



CONTENTS

株主のみなさまへ	2	特集	7	企業データ	13
連結業績ハイライト	3	トピックス	9	インフォメーション	14
セグメント別概況	4	連結財務諸表	12		

株主のみなさまへ



代表取締役 社長

田中 稔

平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。2023年度上半期の業績および今後の見通しについてご説明申し上げます。

▶ 世界経済の状況 –景気回復遅れ 不透明な状況–

当上半期は、ロシアのウクライナ侵攻の長期化に加え、中東情勢が緊迫化。地政学・カントリーリスクが世界の景気回復を遅らせる大きな要因となっています。欧米は金融引き締めが継続し、米中摩擦や中国経済のシュリンクなどを原因として、グローバル経済の停滞が続いています。農業・漁業などの第一次産業、デジタル部品を含む製造業など、広い範囲で出口の見えない状況が続いています。

▶ 当社グループの業績 –減収減益 重点領域ライフサイエンスは堅調–

このような状況下、当社グループの上半期の業績は、売上高3,701億円(前年同期比2.8%減)、営業利益126億円(前年同期比39.4%減)、経常利益127億円(前年同期比43.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益89億円(前年同期比46.3%減)となりました。

厳しい需要環境下、当第2四半期はすべての事業セグメントで第1四半期の収益水準並みかそれ以上となり、着実に回復が進んでいます。Material、E&I、Fiberで海外需要の停滞が続きましたが、Health Care、Nutrition領域は安定して収益に貢献しました。ポートフォリオ変革は着実に進んでいます。四半期純利益は、前年第3四半期以降、改善が続いています。

2023年5月発表の経営計画「いのちの経営」で、地球生命を健康にするテクノロジーとしてライフサイエンス領域を定義し、重点シフトに取り組んでいます。この領域であるMedical、Pharma、Supplement、乳製品、PVでは業容のさらなる拡大に向けた施策を着実に進めており、Green Planet®、食糧生産支援でも市場開発を加速させています。

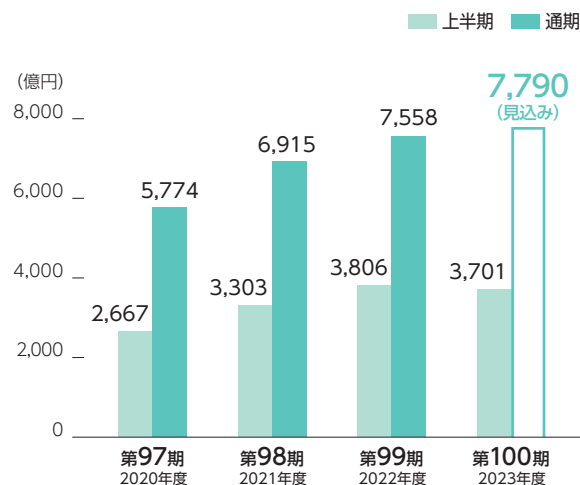
▶ 今後の見通し

中東地域での新たな紛争の勃発もあり、世界経済の不透明感が増しています。IMFは2023年の世界GDP成長率が3%に鈍化するとの見通しを発表しました。この世界経済のStormyな逆風の中でも、ライフサイエンス領域のHealth Care SUセグメントはPharma、Medicalともに研究開発型新製品が力を発揮し、収益拡大が続くものと見通しています。FoodsとSupplementを束ねるNutrition SUセグメントは、「食と健康」の意識の高まりと、インバウンドの再開により市場は活況を取り戻しています。業績を引き続き牽引する事業領域として注目しています。原料動向や為替変動の影響を受けていたMaterial・QOL SUセグメントについても、MOD・E&I・Fiberの市場が回復に向かっていきます。技術革新を取り入れたコスト競争力強化に取り組んでまいります。業績の回復は第3四半期以降も着実に加速する見込みです。

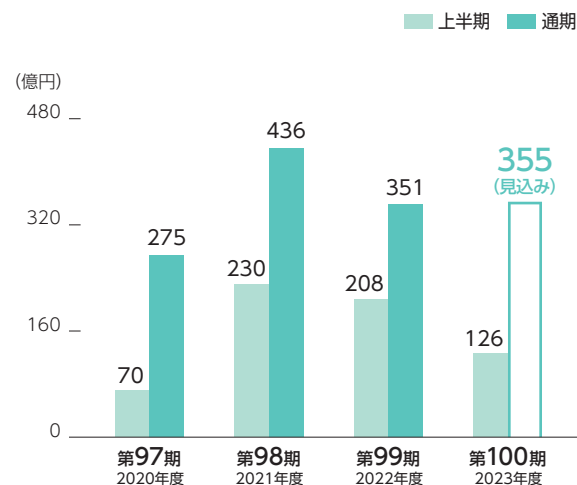
中間配当金につきましては、1株あたり55円とさせていただきます。株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

連結業績ハイライト (推移/2023年度上半期および通期見込み)

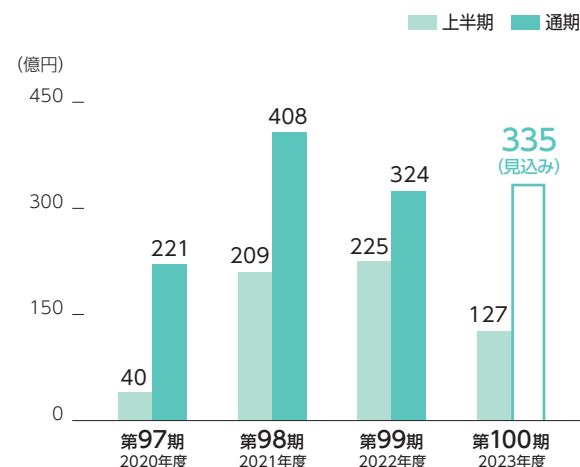
▶売上高



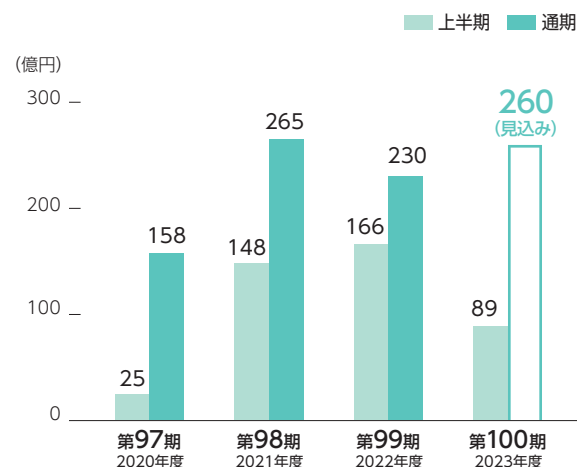
▶営業利益



▶経常利益



▶親会社株主に帰属する当期純利益



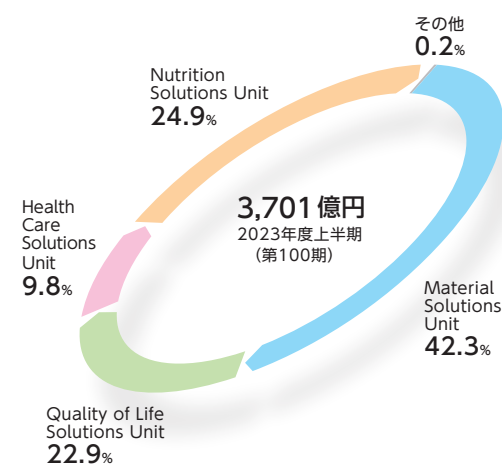
セグメント別概況 (2023年度上半期)

▶セグメント別売上高・営業利益

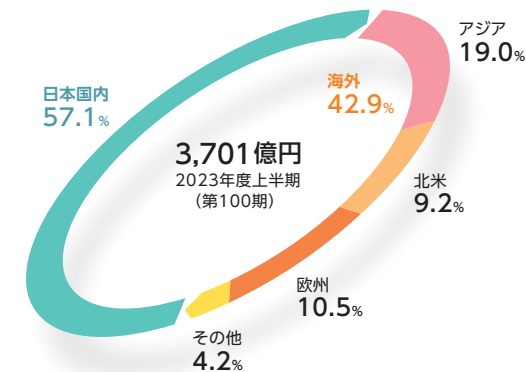
(単位: 億円)

	売上高		営業利益	
	2023年度上半期 (第100期)	前年同期比	2023年度上半期 (第100期)	前年同期比
Material Solutions Unit	1,565	△164 (△9.5%)	121	△66 (△35.2%)
Quality of Life Solutions Unit	848	△24 (△2.8%)	71	△16 (△18.1%)
Health Care Solutions Unit	362	22 (6.5%)	59	△16 (△21.5%)
Nutrition Solutions Unit	920	61 (7.1%)	46	25 (117.6%)
その他	6	1 (17.9%)	4	1 (38.0%)
調整額	—	—	△175	△10 (—)
計	3,701	△105 (△2.8%)	126	△82 (△39.4%)

▶セグメント別売上高構成比



▶地域別売上高構成比



※表およびグラフの比率は表示単位未満を四捨五入

各Solutions Unitの詳細は次のページをご確認ください▶

セグメント別概況

Earthology Chemical Solution / 持続的で快適な生活環境を創造する

Material Solutions Unit

Material Value Creator

素材の豊かさを引き出し生活と環境の進化を支える

回復基調にあるが減収減益

- Vinylsは、塩ビ・か性ソーダともに中国経済の回復遅れやアジア市況の下落の影響を大きく受け、低調に推移しました。
- MODは、欧米での高インフレ・高金利が継続し、建築用途の需給調整が長引いているなか、第2四半期後半から非塩ビ向けやアジア市場の需要が回復基調にあります。エポキシマスターバッチ(MX)は、EVの構造接着剤向けを中心に順調に拡大し、新規用途での拡販も進めています。
- MSIは、需要が底を脱し、新地域・新規用途への拡販も進み、増益となりました。グローバルな需要増大に対応するため、ベルギーでの生産能力増強を進めています。
- Green Planet®は、市場開発のキーとなるさまざまな加工技術や、求められる機能性向上のための配合技術が進み、バイオものづくり力の強化が進んでいます。日米欧の大手ブランドホルダーとの共同開発も順調に進んでいます。

Quality of Life Solutions Unit

Quality of Life Pathfinder

素材の力で生活価値の先端をプロデュースする

スマートフォン市場低迷が主要因で、減収減益

- Foamのスチレン系発泡樹脂の需要は低調に推移したものの、価格改定などによりスプレッドが改善しました。発泡ポリオレフィン、自動車向け需要が国内・海外ともに回復しています。全体としては増収増益となりました。
- PVIは、住宅向け高効率太陽電池の販売が堅調に推移しています。新築住宅などへの太陽電池設置義務化の動きが全国に広がっており、さらなる需要伸長を見通した生産基盤の強化を進めています。
- E&Iは、スマートフォン市場の需要回復が見られるものの、足取りが想定より遅く、ポリイミド製品の販売回復が遅れています。本格的な回復時期は、第3四半期以降と見込んでいます。大型TV向けアクリル樹脂および有機EL向けポリイミドワニスの需要は底を脱し、堅調に推移しました。
- Fiberは、アフリカ市場の出荷は第1四半期を底に回復しております。軽量・撥水・抗菌など高機能新製品の市場評価は高く、またアフリカの未開拓地域への販売拡大により需要増大の取り組みに注力しています。

Active Human Life Solution / 健康で活気に満ちた人生を支える

Health Care Solutions Unit

Medical Edge Explorer

革新医療がより多くの患者に届けられる世界を創る

Medicalは市場開拓が進み、堅調な業績

- Medicalは、血液浄化器・カテーテルともに国内外で販売が拡大し、業績は堅調に推移しました。一層の業容拡大を目的に米国市場で販売体制を強化しており、第4四半期以降一段の増収増益を目指しています。北海道の血液浄化器工場は来年春の稼働に向け、順調に建設を進めています。また、カテーテルのグローバル展開に対応すべく、生産拠点の新設の検討を急いでいます。
- Pharmaは、コロナ禍の沈静化と顧客の出荷調整の影響を受けました。カネカユーロジェンテックのバイオ事業は、開発段階から量産まできめ細かい対応力を生かしたバイオ医薬の新規案件獲得、低分子医薬品は長年の実績をベースとした国内外市場での拡販に取り組んでいます。mRNAの能力増強工事は年末に完工予定であり、グローバル需要の増大に対応すべく、遺伝子疾患やがん治療薬用での採用を進めてまいります。

Nutrition Solutions Unit

Nutrition Value Chain Innovator

食と健康に革新をもたらす

大幅な増収増益

- Supplementは、還元型Q10が米国・アジア・オセアニアなどで順調に販売を伸ばしています。販促活動をさらに強化し、市場拡大を目指します。乳酸菌事業も拡販が進み、生産拠点の新設も検討を始めており、着実に販売を拡大させていきます。
- Foodsは、高付加価値品への販売シフトおよびスプレッドの改善が大きく寄与しました。有機乳製品をはじめ付加価値の高い新規事業の拡大を進め、事業基盤を強化しています。カネカ食品では国内全拠点をカバーするカスタマーセンター設置などの業務革新を進め、収益力の向上に注力しています。



異質なものを事業領域を組み合わせ イノベーション「新結合」を生み出します

当社グループは、これまで培ってきた多彩な技術やソリューションを組み合わせ、今までとは違う「新結合」にチャレンジしています。今回の特集では、クリエイティブ・イノベーションの取り組みをご紹介します。

微生物による新しいモノづくりへの挑戦

微生物×CO₂(二酸化炭素)

当社の独自素材、カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®は、100%バイオマス由来で、海水中*でも生分解されます。素材である樹脂を作るだけでなく、廃食用油を主原料とした製造の検討や、多様な形状に加工する生産技術の確立に取り組んでいます。たとえば、射出成型でカトラリー、延伸したフィルム類からは食品の包材、発泡させて魚箱、コーティング技術で紙コップ、真空成型での育苗ポットなど、さまざまな用途への展開を目指しています。



また、地球温暖化の原因であるCO₂から直接Green Planet®を生産するバイオものづくりの技術にも取り組んでおり、工業規模のプロセス確立を目指しています。本年3月、NEDOが公募したグリーンイノベーション基金事業に採択されました。本プロジェクトを主導し、新規のポリマーや食品素材を生産することも視野に入れ、CO₂から多様な物質を生産する微生物・細胞設計プラットフォーム技術を開発していきます。

※海水温などの環境により、生分解速度は異なります。



G7でGreen Planet®製のクリアファイルを使用

本年4月に北海道札幌市で開催されたG7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合の開催記念イベントにおいて、当社のGreen Planet®で作られたクリアファイルが使用されました。

地球環境に優しいGreen Planet®をいろいろな機会を通じて、世の中に紹介していきます。

おいさと健康を兼ね備えたHealthy Foods

Foods×Supplement

当社は、Foods & Agris事業が持つ食についてのユニークな技術と、還元型コエンザイムQ10をはじめとするPharma & Supplemental Nutrition事業が持つ機能性食品素材群を組み合わせ、わたしのチカラ® Q10ヨーグルトなど、新たなHealthy Foodsを開発しています。

また、環境や乳牛の健康にも配慮した循環型有機酪農にも取り組んでいます。グループ会社や提携企業の持つ商流や加工技術を組み合わせ、有機飼料で育てた牛の生乳から生まれた有機JAS認証食品も上市しました。日常の食品から健康を目指すライフスタイルを提案していきます。



わたしのチカラ®
Q10ヨーグルトシリーズ

有機JAS認証食品
ピュアナチュラル
オーガニックヨーグルト

グループのシナジーで生み出す接着ソリューション

カネカ×セメダイン



一液常温速硬化型弾性接着剤
スーパーX

セメダイン株式会社との技術連携・人的交流を強化しています。カネカが得意とするポリマー設計から、セメダインが得意とする顧客のニーズに合わせた配合検討まで一貫した、スピーディーな製品開発につながっています。

既存の素材や技術では解決できない課題に対して、独自の接着ソリューションを提供し、グローバル展開を進めます。

ベルギーのチョコレートブランド 「BENOIT NIHANT」の 国内1号店が銀座にオープン



🍫 カカオ農家と手を携えて

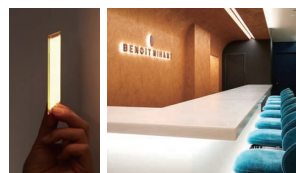
カカオ職人ブノワ・ニアン氏のチョコレートは、カカオ豆からチョコレートを一貫して作る「Bean to Bar」という製法が特長です。ペルーに保有するカカオ農園では、環境に配慮した農園づくりに取り組んでいます。

単一農園・単一品種でのチョコレートづくりを実現するために、カカオの生産者と手を携え、栽培、収穫後の発酵、乾燥に至るまで管理されたカカオ豆を、自ら品質確認した上で、自社工場で使用しています。

🏠 カネカのブランド発信基地として

当社は、グループ会社のカネカ食品株式会社(本社:東京都新宿区、社長:福崎太)を通じて、バレンタインの催事やオンラインショップでチョコレート製品を販売してきましたが、9月16日に、銀座に国内初の旗艦店をオープンしました。

日本限定の商品も取りそろえ、予約制のカフェを併設しています。有機EL照明を活かした、ベルギー本国の工房の雰囲気を感じられる店舗で、BENOIT NIHANTのチョコレートをご堪能ください。



国宝の展示照明としても採用されるカネカの有機EL照明が、やわらかな光でチョコレートの魅力を演出



お持ち帰り用バッグはもちろんカネカ生分解性バイオポリマー Green Planet® 製



店舗外観

〒104-0061
東京都中央区銀座4-6-18
ギンザアクトビル 1階・地下1階
TEL: 03-5579-5820
<https://benoitnihant.jp>



オンラインショップ



Instagram

「発想のダイバーシティ」を 目指して



当社は、年齢・性別・国籍などの属性を問わず、メンバーそれぞれの多様な個性と視点が仕事に活かされている「発想のダイバーシティ」が進んだ状態を目指しています。まずは、意思決定の場に参画する女性社員を増やすため、女性活躍推進に力を入れており、本年8月に三宅宏実社外取締役と女性社員との座談会、同11月に笹川祐子社外取締役に よる、新任幹部職を対象にした講話を実施しました。

ウェイトリフティングのトップアスリートとして長年活躍された三宅氏との対話は、参加者の多彩な視点の獲得と新たな挑戦への意欲醸成をねらいとして行いました。また、笹川氏による講話を通じて、これからの組織をリードする、男性社員も含めたマネジメント層へ意識改革を促しました。

新たな発想を生み出し、世界を驚かせるユニークな価値を提供する土台として、当社は引き続き、属性を問わず変革と成長を牽引するリーダーの育成をさまざまな機会の創出を通じて推進し、組織の意思決定における多様性を高める取り組みを行っていきます。



三宅宏実 社外取締役
座談会(8月開催)



笹川祐子 社外取締役
講話(11月開催)

風の杜[®]がWELL認証の最高ランク「プラチナ」を取得

当社の健康経営のシンボルKANEKA Wellness Center 風の杜[®]が、健康建築性能評価制度WELL認証での最高ランク「プラチナ」を取得しました。アメリカで開発された国際認証制度で、日本国内で認証されているプラチナランクの建物は、16件のみ*です。建物の環境・エネルギー性能、居住者の健康・快適性を含むコンセプトに沿って審査がなされます。

風の杜[®]は太陽電池の設置による温室効果ガス削減の加点項目などもあり、96点の評点を受けました(80点以上がプラチナ認証)。本施設をマザーセンターとして、引き続き、社員の健康やウェルネスに配慮した職場環境をつくっていきます。

*2023年9月時点



風の杜[®]の外観



「WELL認証」認証書

世界を健康に「カネカは、考える。」シリーズ、広告賞を受賞

当社の企業広告が、第63回全北海道広告協会賞の新聞部門で、奨励賞を受賞しました。当社の技術で社会貢献できることを、4つの切り口で表現しているシリーズ広告です。本シリーズは、北海道マラソン2022への協賛の機会に制作、掲載しました。

その後、ウミガメの写真をキービジュアルにした「環境編」を、全国版の新聞で全面広告として掲載し、当社の代表的な広告として展開しています。

また環境編の全面広告についても、第72回日経広告賞のパーパス・ESG部門で最優秀賞を受賞しました。



#001

カネカは、考える。
プラゴミが海を汚すなら
海中で生分解できないか。

世界中の環境問題は、海洋プラスチックが原因。日本は世界唯一の全生分解可能なプラスチック「Green Planet[®]」を開発し、海洋プラスチック汚染の削減に貢献。この技術を活用した生分解可能なプラスチックを開発。世界初の生分解可能なプラスチックを開発。世界初の生分解可能なプラスチックを開発。世界初の生分解可能なプラスチックを開発。

連結財務諸表

▶ 四半期連結貸借対照表(要約) (単位:億円)

科目	第100期	第99期
	2023年9月30日現在	2023年3月31日現在
資産		
流動資産	4,258	3,970
固定資産	4,155	3,857
資産合計	8,412	7,826
負債		
流動負債	2,993	2,582
固定負債	850	880
負債合計	3,843	3,462
純資産		
株主資本	3,806	3,771
その他	764	593
純資産合計	4,570	4,364
負債純資産合計	8,412	7,826

Point

- **総資産**は、棚卸資産の増加に加え、設備投資拡大による固定資産の増加、円安による海外グループ会社の資産額増加等により前期末に対して586億円増加の8,412億円となりました。
- **負債**は、借入金の増加等により381億円増加の3,843億円となりました。
- **純資産**は、円安による為替換算調整勘定の増加や保有株式の時価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加等により206億円増加の4,570億円となり、自己資本比率は51.9%となりました。

▶ 四半期連結損益計算書(要約) (単位:億円)

科目	第100期	第99期
	2023年4月1日から2023年9月30日まで	2022年4月1日から2022年9月30日まで
売上高	3,701	3,806
営業利益	126	208
経常利益	127	225
税金等調整前四半期純利益	144	225
親会社株主に帰属する四半期純利益	89	166

Point

- **売上高**は、前年同期に比べ105億円の減収(前年同期比2.8%減)となりました。
- **営業利益**は、前年同期に比べ82億円の減益(前年同期比39.4%減)となりました。
- **経常利益**は、前年同期に比べ98億円の減益(前年同期比43.4%減)となりました。
- **親会社株主に帰属する四半期純利益**は、前年同期に比べ77億円の減益(前年同期比46.3%減)となりました。

▶ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (単位:億円)

科目	第100期	第99期
	2023年4月1日から2023年9月30日まで	2022年4月1日から2022年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	240	104
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 306	△ 210
財務活動によるキャッシュ・フロー	99	37
現金及び現金同等物の四半期末残高	449	352

Point

- **営業活動**によるキャッシュ・フローは運転資金の増加や法人税等の支払による支出の一方、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等による収入により240億円の収入となりました。
- **投資活動**によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により306億円の支出となりました。
- **財務活動**によるキャッシュ・フローは、配当金の支払による支出の一方、借入金の増加による収入があり99億円の収入となりました。
- この結果、**現金及び現金同等物の残高**は、449億円となりました。

※詳細は、当社WEBサイトをご覧ください。

企業データ

(2023年9月30日現在)

▶ 会社概要

社名 **株式会社 カネカ**
(KANEKA CORPORATION)

東京本社 〒107-6028
東京都港区赤坂一丁目12番32号
(アーク森ビル)
TEL 03-5574-8000(代表)

大阪本社 〒530-8288
大阪市北区中之島二丁目3番18号
(中之島フェスティバルタワー)
TEL 06-6226-5050(代表)

設立年月日 1949年9月1日

資本金 33,046,774,709円

ホームページ <https://www.kaneka.co.jp/>

▶ 役員

代表取締役会長	菅原 公一
代表取締役社長	田中 稔
取締役副社長	藤井 一彦
取締役副社長	亀高 真一郎
取締役上級執行役員	角倉 護
取締役常務執行役員	泥 克信
取締役常務執行役員	榎 潤
取締役常務執行役員	小森 敏生
取締役(社外)	毛利 衛
取締役(社外)	横田 淳
取締役(社外)	笹川 祐子
取締役(社外)	三宅 宏実
監査役(常勤)	岸根 正実
監査役(常勤)	石原 忍
監査役(社外)	藤原 浩
監査役(社外)	魚住 泰宏

▶ 株式の状況

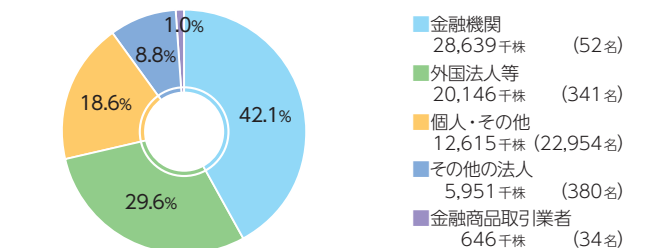
発行可能株式総数 150,000,000株
発行済株式の総数 68,000,000株
株主数 23,761名
1人あたり平均持株数 2,862株

▶ 大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,824	10.51
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	3,226	4.97
日本生命保険相互会社	3,114	4.80
株式会社三井住友銀行	3,091	4.76
明治安田生命保険相互会社	2,825	4.35
BNYMSANV AS AGENT/CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1	2,389	3.68
株式会社三菱UFJ銀行	2,308	3.56
三井住友海上火災保険株式会社	2,104	3.24
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,017	3.11
カネカ取引先持株会	1,313	2.02

(注) 1. 持株数は表示単位未満を切り捨て
2. 持株比率は、自己株式数を除いた発行済株式の総数を基準に算出し、小数第三位を四捨五入
3. 上記のほか、当社が保有している自己株式は3,085千株

▶ 所有者別株式分布状況



(注) 1. 株式数は表示単位未満を切り捨て
2. 比率は小数第二位を四捨五入

インフォメーション

▶ WEBサイトのご案内

統合報告書や、最新のリリースなどをご覧いただけます。引き続き、内容の充実と、適時適切な情報開示を行ってまいります。

▼ IR情報
統合報告書は
公式 HP からチェック!



▶ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告方法	電子公告 https://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)

(カバーアート) アーティスト: 曾谷朝絵
・タイトル: Blow
・制作年: 2022年

▶ 配当金の受け取り方法

配当金の受け取り方法は3つあります。②または③は、支払い開始日当日の受け取りが可能です。また、**支払い開始日から満3年を経過した配当金は受け取りができなくなります**ので、口座振り込みをぜひご活用ください。

- 1 郵便局などの窓口**
「配当金領収証」を持参し、郵便局などで受け取り
- 2 証券口座への入金**
各証券会社の証券口座で受け取り
- 3 銀行口座などへの入金**
指定の金融機関口座への入金
(個別銘柄ごとの指定も可能)

問い合わせ先
現在の受け取り方法の確認や変更など、配当金の口座振り込みに関する問い合わせは、お取引先の証券会社(口座管理機関)にお申し出ください。

手続き窓口

- 住所変更、買取請求などの手続きは、口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する手続きについては、左記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金については、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

UD FONT
by MORISAWA
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

